



# 楠の葉

佐賀大学同窓会報 第9号

発行日 2008年7月1日

発行 佐賀大学同窓会

佐賀市本庄町1 佐賀大学内

TEL 0952-23-1253

FAX 0952-25-5700

E-mail dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp

ホームページ http://dousou.ext.saga-u.ac.jp/

編集代表者 前村 晃

## 佐賀大学医学部 開講30周年 記念祝賀会に 出席して



平成20年5月10日、佐賀大学医学部開講30周年記念事業がホテルニューオータニにおいて開催された。佐賀大学医学部のこれまでの歴史を垣間見ると、昭和51年10月、佐賀医科大学として開学。昭和53年4月に第1期生が入学し、開講された。その後、平成15年10月に、旧「佐賀大学」と統合し、「佐賀大学医学部」となり、平成16年4月の法人化により、現在の「国立大学法人佐賀大学医学部」となった。

記念事業として、午前中に医学部臨床大講堂において、聖路加国際病院理事長であり、佐賀大学医学部顧問でもある日野原重明先生による「大学のもつ地域住民への大切な役割」と題した講演会が行われた。医学部大講堂及び別室のモニター中継室が約700人の一般市民の方々や同窓生及び関係者らで一杯となり、日野原先生のユーモアにあふれた、素晴らしい講演で、会場は熱気に包まれていた。

午後からは、ホテルニューオータニ佐賀へ場所を移動し、「佐賀大学医学部開講30周年を祝って～ヒトのころはどこまで見えるか～」と題した記念講演会が行われた。

式典では、木本雅夫医学部長が「良い医療人の育成」「地域包括医療の向上」という理念の下、人材の育成、医学看護学の発展及び地域包括医療の向上に力を注いでいきたい」と挨拶され、長谷川照佐賀大学長がお祝いの言葉を述べられた。続いて、古川 康佐賀県知事、三浦公嗣文部科学省医学教育課長、沖田信光佐賀県医師会長ならびに樽木 等佐賀県立病院好生館長から祝辞が述べられた。

引き続き、祝賀会が開催された。最初に、会場に映し出された映画にびっくりした。それは、なんと30年前の見渡すかぎり、田んぼしかない広い鍋島地区にぼつんと赤茶色の教養校舎が建っている佐賀医科大学の風景だった。思わず、その風景に感動して、涙が浮かんできた。現在に至るまでの歴史を10分ほどにまとめたすばらしい映像だったと思う。その感動で心臓がドクドクする中で、十時忠秀前医学部附属病院長による乾杯が述べられた。やっと、ここで緊張がほぐれて、お酒を頂いた。私たち同窓生は恩師、特に山口雅也前佐賀医科大学長、高井成幸名誉教授を囲んで、思い出話や近況報告など、お酒を嗜みながら、30年前の思い出を語り合った。

私は佐賀医科大学に一期生として入学し、佐賀での生活が30年を過ぎたが、多くのすばらしい人に巡り合えたことが嬉しい。これまで確かに辛い出来事もあったが、それを乗り越え、現在、自分がここに在るのは「人と人との関係」を大切にしてきたからであろう。これからの私の役割は、これまで30年かけて培われた佐賀医科大学および佐賀大学医学部による「文化」を大切に、次の世代へ引き継ぐことだろう。佐賀大学医学部は、これからも多くの卒業生を輩出し、新たな文化を創造し続けるだろうが、私たち同窓生もそれを見守り、語り合いながら、生涯にわたり、つながりを大切にしていきたいと思った次第である。

佐賀大学医学部開講30周年記念祝賀会は本当にすばらしい式典だったと思う。多くの方々のご努力に感謝いたします。

医学部第一期生（昭和59年卒）  
佐賀大学教授・保健管理センター所長

佐藤 武

平成 20 年 度

事業計画を決定

4月16日(水)、定例役員会を開催し、19年度事業及び決算報告、20年度事業計画及び予算を協議決定しました。また、役員改選では会長に久間善郎氏(37卒・法律)が再選されました。

1. 会報発行事業

- 1) 佐賀大学同窓会会報「楠の葉」発行(年2回)
- 2) 佐賀大学広報「かちがらす」発送(年3回)

2. 事業活動

- 1) 支部総会・懇親会参加
- 2) 佐賀大学と佐賀大学同窓会との意見交換会
- 3) 佐賀大学PR
- 4) 提供講座「キャリアデザイン」
- 5) 就職支援
- 6) 佐賀県青春寮祭参加
- 7) 開学祭支援事業
- 8) 懇話会「クリエイティブ21」

平成20年度 佐賀大学同窓会役員名簿

役職	担当	氏名	卒業年学科	役職	担当	氏名	卒業年学科
会長		久間 善郎	楠葉・37法	理事	会計	成富 宏	教育・38美
副会長		宮島 豊秀	教育・35小	"	会計	石丸 新	楠葉・44法
"		梅崎 正道	楠葉・37経	"	会計	野出 孝一	医学・63医
"		江村 正	医学・62医	"	会計	中島 道夫	理工・47化
"		田中 正和	理工・48化	"	会計	山口 郁雄	農学・52農
"		松尾 正紀	農学・43農	"	庶務	三原 信一	教育・42中
理事長		宮尾 正隆	教育・36美	"	庶務	長 安六	楠葉・44経
副理事長		光岡 正登	楠葉・34経	"	庶務	土肥佐和子	医学・H9看
"		佐藤 武	医学・59医	"	庶務	穂屋下 茂	理工・49機
"		椿 忠彦	理工・53物	"	庶務	白武 義治	農学・51農
"		光富 勝	農学・51農	"	情報	今野 厚子	教育・51中
理事	広報	永吉 一子	教育・33小	"	情報	加藤 明	医学・63医
"	広報	前村 晃	教育・45美	"	情報	渡邊 健次	理工・62物
"	広報	徳永 進	楠葉・49経	"	情報	寺山 康教	理工・H1機
"	広報	江口 邦子	楠葉・52経	"	情報	田中 宗浩	農学・H4生
"	広報	枝國源一郎	医学・H3医	"	懇話会	小池 政雄	楠葉・34英
"	広報	池上 康之	理工・61生機	"	事務局長	副島昭十朗	楠葉・33法
"	広報	磯野 健一	理工・62工化	監事		青柳 博臣	教育・31中
"	広報	有馬 進	農学・52農	"		青山 祐二	楠葉・42経
"	広報	吉賀 豊司	農学・H2園	"		石川 倫子	医学・H10看
"	資料	江口 信義	教育・36中	"		太田 里美	理工・48数
"	資料	百武 英明	楠葉・37経	"		北川 行俊	農学・37農
"	資料	古島 知恵	医学・H11看	顧問		田中 幸男	楠葉・29化
"	資料	深井 澄夫	理工・53電子	"		関本 優	楠葉・31経
"	資料	溝口 善紀	農学・53農				

~ Creative 21 母校を考える ~

22回例会より27回例会開催(平成19年1月~平成20年6月)

「クリエイティブ21」の第22回から第27回は、以下のようなテーマ及び講師で開催されました。いずれも佐賀大学の今後の発展に資する内容で貴重な問題提起がなされました。この会は、佐賀大学に関心がある方ならどなたでも参加できます。今後とも多くの皆様の参加を期待しています。

第22回例会(平成19年1月26日)

佐賀大学医学部の「これまで」と「これから」

佐賀大学医学部長 木本雅夫氏

第25回例会(平成20年1月25日)

国際貢献と将来計画

佐賀大学理事 西河貞捷氏

第23回例会(平成19年3月30日)

佐賀大学医学部附属病院の現状と将来

佐賀大学医学部附属病院長 十時忠秀氏

第26回例会(平成20年4月24日)

大学コンソーシアムについて

佐賀大学理事 田代洋丞氏

第24回例会(平成19年6月22日)

佐賀大学経済学部の現状と将来

佐賀大学経済学部長 納富一郎氏

第27回例会(平成20年6月27日)

社会貢献と広報活動等について

佐賀大学理事 向井常博氏



## 佐賀大学との意見交換会

定例となった佐賀大学と佐賀大学同窓会との意見交換会が、4月25日にホテルニューオータニ佐賀で開催された。

大学側は、長谷川学長はじめ4人の理事、各学部長の10名が参加され、同窓会側は、久間会長はじめ副会長、理事長、副理事長、理事の計11名が参加した。

まず久間会長から、同窓生が今年の卒業生を含め46,600名となったこと、全国に30の支部があり活発に活動していること、佐賀大学同窓会の活動として、キャリアデザイン講座への講師派遣、就職支援（就職内定者との懇談会を含む）、大学の現状を知るためクリエイティブ21を開催していること等の紹介があった。

また、今年から菱の実会館研修室等の使用料を同窓会活動については無料にさせていただいたことの御礼が述べられた。

続いて、長谷川学長から、「佐賀大学中長期ビジョン（2008 - 2015）」を策定し、現在具体的な骨子の作成に取り掛かっている。今後、同窓会には一層の支援をお願いしたいとの挨拶があった。

出席者の紹介のあと、自由な意見交換が行われた。

まず長谷川学長から、「大学改革～第1期中期目標から第2期中期目標～」と題する資料に基づき、大学改革について、教育と研究の面から詳細な説明

が行われた。

また、「今年1月に策定した『佐賀大学中長期ビジョン（2008 - 2015）』は、佐賀大学憲章に基づき佐賀大学の目指すべき方向性とその方策を示すものであり、第1期中期目標期間に取り組んできた大学改革の成果を踏まえて本学の将来を展望している、是非読んでいただきたい。」との発言があった。

続いて、教育・学生担当の田代理事から、学生支援の充実等について、研究・国際貢献担当の西河理事から、デュアル・ディグリー・プログラム等について、社会貢献・医療担当の向井理事から、エコアクション21の取組、広報、附属病院再開発計画等について、総務・財務担当の野中理事から、附属学校改修等について説明があった。

各学部長から、学部の取組等について紹介があった。

同窓会からは、教員採用試験対策講座への講師派遣等、就職支援の具体的な取組の紹介、大学に対する意見・要望等が出され、2時間にわたる意見交換会を終了した。

（参考）

「佐賀大学中長期ビジョン（2008 - 2015）」

佐賀大学ホームページ URL:

[http://www.saga-u.ac.jp/koho/2008\\_vision\\_1.htm](http://www.saga-u.ac.jp/koho/2008_vision_1.htm)

# 佐賀大学・唐津市共同プロジェクト 唐津焼人材養成プログラム

文部科学省採択決定!! 年間5,000万円、5年間、2億5,000万円

文部科学省では、「平成20年度 科学技術振興調整費 地域再生人材創出拠点の形成」の募集をしておりましたが、佐賀大学と唐津市は共同プロジェクトとして、「戦略的発想能力を持った唐津焼産業人養成」をテーマに計画を練り、応募いたしましたところ、採択されることになりました。

このプロジェクトに対しては、年間5,000万円、5年間計2億5,000万円が助成されることとなります。

本学部美術・工芸講座では、九州全域の伝統工芸の支援・育成を目指し、九州の伝統工芸の拠点となるよう努めています。

このプログラムの事務局は、文教、美術・工芸講座に置かれ、理工学部、経済学部の協力を受けながら、中心的活動を美術・工芸講座の教員と外部から迎え入れる非常勤講師により行います。

このプロジェクトにおいては、伝統産業の技術革新の中核となる若手人材を対象にし、地元自治体、産業界との産学官連携により、先端科学技術、伝統工芸技術、経営戦略技術の融合による人材養成プログラムを実施し、地域の活性化を図ることを意図しています。

養成期間は3年制とし、1年目を「基礎課程」、2、3年目を「コア研究課程」で編成する。養成対象者を3年目まで、毎年10名受け入れ、5年間で30名の人材を養成する。

先端科学技術、伝統工芸技術、戦略的経営技術について習得する場を提供することで、その技術・知識を活かして具体的な商品開発や販路開拓、ブランド化等、戦略的で国際的な活動ができ、産業再生に貢献できる戦略的発想能力と顧客志向の感性を持った人材を養成することになります。

大学も地域社会もローカルな活動をしながらグローバルな事業とも取り組まなければならない時代ですが、ただ、地方にいて東京やニューヨークの表面的なところだけ真似しても、ほとんど無意味です。

唐津焼は、世界的視野で見れば極めてローカル色豊かな伝統産業の一つですが、唐津焼にはグローバルな世界で高い評価を受けるだけの価値を多分に含

んでいるといえます。

佐賀の人の目で見ると、唐津焼の伝統産業そのものが夢とロマンの大鉱脈といえると思います。

地元の大学と地域の伝統産業社会とが真摯に向き合い、日本のブランド作り、世界のブランド作りまで視野に入れて、共同でその可能性を追求するということは、まさしく壮大でロマンに満ち満ちた事業といえます。佐賀だからこそできること、佐賀でなければできないことこそ、大きな可能性が潜んでいるといえるでしょう。

さて、最も肝要な「募集養成対象者」ですが同窓生の皆様にもご協力を願う場面もあろうかと思いますのでご紹介しておきます。

唐津焼産業従事者・事業者（18歳以上40歳未満）

将来、唐津焼産業に携わろうとする者

陶磁器産業の科学的素材研究、経営戦略・販路開拓、広報活動等に関心のある事業者、商工団体、行政及びNPO等の関係者

本プロジェクトで期待している応募者は、養成修了後、先端科学技術、伝統工芸技術、戦略的経営技術を融合させ、その技術・知識を活かして、新商品開発等の技術革新や国内外を流通するグローバルブランドを創出するなど産業再生の中核として貢献できる戦略的発想能力の獲得をできる人ということになります。

また、商工団体、行政及びNPO等の関係者においては、本プログラムにおいて習得した技術・知識を礎に、さらなる産官学連携による地域再生の推進に貢献できる人材をもとめています。同窓会でもご協力できることはぜひともお願いしたいところです。



(文責・前村 晃)

# 総会・懇親会 和気あいあいと

6月21日(土)、楠葉同窓会総会および懇親会を、佐賀市の「はがくれ荘」で開催しました。

## 〔総会〕

### 全学同窓会との連携強化を

総会には東京から鹿児島まで16支部の代表が出席しました。

出された意見が多かったのは、支部活動に必要な全学部の名簿についてでした。多くの支部が全学同窓会支部として活動されていますが、「支部懇親会の開催案内に必要な名簿が確保しにくい」「名簿整理にアルバイトを雇い支部独自で整理せざるをえなかった」など、支部の苦勞が報告されました。

現在、名簿は各学部同窓会別に管理されており、必要な場合は各同窓会に申請することになっています。

また、会則の改定案については、「全学同窓会との関係を明記すべき」との意見が出され、役員会で整理することになりました。

なお、議案は全て原案どおり議決されました。

## 〔懇親会〕

### 80人が交流

懇親会には、来賓としてお招きした佐賀大学長谷川学長など大学関係者、他学部同窓会代表、楠葉同窓会名誉顧問をはじめ、会員など80人が参加し、交流を深めました。

この懇親会は、毎年開催していますが、今年度は司会に石井雅美さん(H13入・経法)、牟田香織さん(H15入・経システム)、また受付に穂屋下薫さん(H17入・経システム)、大熊未希さん(H17入・経システム)にご協力をいただきました。



各支部から代議員が出席し、多くの意見が出されました。



参加者相互の交流を深めました。



ピンゴ当選一番乗り



最後は恒例の巻頭言と踊り

# 医学部の現況



医学部社会医学講座  
市場 正良

医学部、特に私が所属しています基礎医学系の現況についてお話しします。基礎医学系といっても他の学部の方にはお分かりではないと思いますので、医学部の概要からお話しましょう。医学部は、医学科、看護学科から構成され、それぞれ医師や看護師・保健師・助産師を養成する学部です。医学や看護学研究の分野には、病院での診断、治療、看護など医療活動に直結する臨床研究部門と人体の機能や病気の起こる仕組みの解明する基礎研究部門に分かれます。臨床と基礎の中間に当たる社会医学部門があり、病気の予防に関連した研究を行っています。よって医学科においては臨床医学、基礎医学、社会医学、また看護学科においては臨床看護、基礎看護、地域看護と呼ばれることもあります。特に地域看護分野では保健師の養成も重要です。

平成14年に基礎医学系の大きな再編がありました。開学より大講座制をとっていましたが、それをさらにまとめた再編となりました。従来の生化学、薬理学、免疫学、化学、生物学をまとめて分子生命科学講座、解剖学、生理学をまとめて生体構造機能学講座、病理学、微生物学をまとめて病因病態科学講座、地域保健科学、法医学、語学、哲学をまとめて社会医学講座に再編されました。この間には行政改革の流れから、研究職、事務職等の定員が削減され、現在に至っております。

基礎医学は人材が豊富であるとはいえませんが、各講座それぞれ世界に誇れる研究を目指しています。社会では医師不足が問題になっています。とって基礎医学に人材が流れてきているかといえばそうでもなく、医者はいったいどこへ行ってしまったのでしょうか。そのためもあってか医学部以外からも医学研究に関わってもらおう目的で、従来の博士課程に加えて、平成15年に医科学修士課程が開講されました。医学部以外の4年制大学を卒業された方のために医学を学んでもらう修士課程です。ただし、医学関係の資格は取れません。医学部の研究のパワー

アップには一定の成果を果たしているとは思いますが、就職面での課題は残っています。従来、医師、看護師といった専門資格を持った人達の就職にしか関わっていなかった医学部にとっては、彼らの就職は難しい問題です。そこで最近では修士課程、博士課程に社会人大学院生の制度ができ、仕事をしながら時々大学に来て単位をとり、論文を仕上げ、修士、博士の学位をとることができるようになってきました。そのため、修士、博士課程の講義はビデオにとられ、社会人学生が時間外に利用できるようになってきました。社会人大学院生の制度は医学部卒業生だけでなく医学部内のパラメディカルスタッフの進学にも利用されており、学部や病院スタッフのレベル貢献できているものと思われます。

私は昨年10月に社会医学講座教授に就任させていただきました。医学部では、戸田先生(1期、病因病態科学(病理))、野出先生(5期、循環器内科)とともに卒業生として学部の発展に貢献できるよう努力していきます。私の研究室である社会医学講座環境医学分野では、環境と健康に関わる研究を行っています。環境医学、産業医学といわれる分野です。産業現場での化学物質の曝露を評価するための手法の開発やその利用による職業疾病の予防あるいは喫煙や一般住宅や学校のシックハウス問題にも関わっています。また、研究以外の学内外の社会医学活動もあります。国立大学の独立行政法人化により公務員でなくなったことから労働安全衛生法への対応を行わなければなりません。また、環境面では、平成20年3月に佐賀大学が環境マネジメントシステムである「エコアクション21」を取得としたことにより、学内の省エネ活動や環境関連の法規制対応にも時間をとられています。これらは医学教育や研究には直接には関与しない部分ではありますが、大学の社会的責任を果たす上で重要な課題であり、学内外の皆様のご理解よろしくお願いいたします。

## 【HOT NEWS ①】

## 理工学部で進むeラーニング利用

## 同窓生が利用できるeラーニング教材の紹介

佐賀大学高等教育開発センター・  
教授 穂屋下 茂 理工・49機)

理工学部では、物理専門教育や微分積分学などの基礎分野において、基礎学力と自主学習を向上させるためのeラーニングを利用した教育が進んでいます。一方、このeラーニング利用に関して、佐賀大学では、英語教育や生涯教育、学外への教育環境のサービス提供も行っております。その中には、同窓生の方々ができるプログラムもあります。そこで、本稿では、理工学部で進むeラーニング利用とともに、佐賀大学のeラーニングの現状を紹介させて頂きたいと思っております。

佐賀大学のeラーニングは、平成14年度から全国の国立大学に先駆けて、いつでも何処でも何度でも聴講できるVOD型フルeラーニングを教養教育科目としてスタートさせました(本学ではネット授業と呼んでいる)。本学のeラーニングは、他大学の実践と大きく異なっています。大学の情報インフラ整備を担っている機関(本学では総合情報基盤センター)ではなく、新たにeラーニングスタジオをつくり、ネット授業のサービスが行える実施体制が築かれました。正式な学内組織でもないために予算がなく、一見無茶な行為とも思えたが、着実な実践を積み上げた結果、全国でもまれな成功事例に至っています。

平成16年度には「ネット授業の展開」が現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)に採択され、科目数も倍増しました。その後、一時継続が危ぶまれる状況もありましたが、大学のトップ陣の理解により予算が計上され、平成19年度からは高等教育開発センターで企画・立案し、教養教育機構に「eラーニング実施委員会」を設置してICTを活用した教育改善の実施運営に当たっています。

平成19年度のネット授業科目は23科目で、単位取得者は約1,350名に達しました。平成19年度から、ネット授業で構築・運用しているLMS(学習管理システム)を、本学の全ての対面授業の科目でも利用できる環境を構築しました。理工学部では、物理

科学科の船久保先生の物理専門教育をはじめとして、様々な基礎分野において、LMSの利用が広がってきています。今後、全学的な利用推進が期待されています。平成19年度のLMSを利用した授業(ネット授業を除く)は33科目で、2,000名以上の学生が利用しました。

eラーニングスタジオでは、学生対象のeラーニング推進のほかに、生涯学習へのeラーニング推進も行っています。文部科学省の委託事業である「地域における教育情報発信・活用促進事業」などにも積極的に取り組んできました。平成19年度には、「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」の委託事業である「佐賀大学デジタルコンテンツ・クリエイター育成プログラム(3年間)」が採択されました。現在、特別の課程の規定が整備されつつあり、特別の課程に本企画が認められれば、本プログラムの修了者は、単なる修了認定書でなく、大学の単位認定に準じる修了認定書が発行されることになります。平成19年には、本学独自の事業として『佐賀大学eラーニングスクール:「佐賀と技」コース』を開校しました。是非、下記のHPをご覧ください。同窓生の方々、利用できるeラーニング教材との出会いがあれば幸いです。

<http://www.saga-u.ac.jp/e-learning.html>

多くの方々からもご意見をいただき、同窓生の方々のご期待にも添えるような教材を通して、佐賀大学と同窓生の一層の連携が図られるようになることを期待しています。



## 理工学部同窓会総会開催のお知らせ

来る平成20年8月30日(土)に理工学部同窓会総会を開催いたします。

日時:平成20年8月30日(土)15:00~

場所:佐賀大学「菱の実会館」

<http://dousou.ext.saga-u.ac.jp/rikou/info.html>

出席の際は、氏名、学科名、卒業年度を同窓会事務局までお知らせ下さい。

# 農学部での30年をふり返って

佐賀大学 名誉教授 加藤 治

私、昨年、平成19年3月31日付けで退職いたしました。それからはや1年。この会誌の編集委員の吉賀先生からは昨年度発行の会誌に間に合うように十分な時間を頂きながら、現役時代からの怠慢癖で原稿締め切り日が過ぎてしまい、1年遅れのご挨拶となりました。

私が佐賀大学に赴任したのは、昭和52年3月でした。学園紛争は下火になっていましたが、それでも寮の解体でゆれていた頃と思います。それ以来、昨年3月の退職まで実に30年1ヶ月間佐賀大学にお世話になりました。大過なく過ごすことが出来たのは、多くの教職員の方々や同窓生の皆様のお陰と、心からお礼を申し上げます。特に農業土木科および環境情報系の先生方、とりわけ公私にわたってご指導頂いた戸原前教授（現九州大学名誉教授）、研究面でいつもご協力頂いた瀬口教授に感謝申し上げます。

振り返りますと、研究面での私のモットーは、まず現象を知る、ということでした。現地を調査し、それが難しいときは実験を試みる、ということです。このため、当時の学生諸君には、結構過酷な現地観測や水理模型実験をお願いしました。淡水湖における淡塩2層界面の風による挙動解析の実験では、早朝から深夜まで定時ごとの観測を何日も何日も続けました。筑後川の塩分遡上解析の調査では8カ所の地点で、1時間ごとの観測を24時間継続で3回行ったこともありました。ラビリンス堰の減音対策実験では、日中は日常の生活騒音を拾うため、深夜に蚊の大群と闘いながら騒音計測実験を何ヶ月もしました。有明海沿岸域の樋門前面の濁筋における流速測定および採泥を何年も実施し、ある年には、足場を組んで測定していた学生諸君2名が、足場が崩れ濁に落下するということがありました。5月の結

構寒いときでしたが、泥だらけで実験を続けてくれたのを思い出します。多布施川での水草による流水抵抗を測定したとき、またクリークに繁茂しているホテイアオイの流水抵抗の測定をしたときは、当然ながら水着で頑張ってくれましたが、岸で多くの人が不思議そうに見ていたことも。

本来私自身が夜型人間でしたので、夜や深夜に実験やゼミがずれ込むことが日常的でしたが、学生諸君も誰一人不服を言った人がいなかったように思います（心の中では不満だらけであったかも??）。しかも早朝から深夜までの実験や、夏の猛暑のなかで実験、卒論に間に合わせるべく厳冬の野外での実験などのときに、研究室の人たちだけではなく他の研究室の人もよく助けてくれていたのは、本当に印象的でした。卒業された後もこうした助け合いの気持ちは続いているようで、すばらしいことと思っています。

5年前に学位を取ったインドネシアの留学生が、来年国際学会を主催するのでぜひ来てほしい、との招待を頂いています。留学生の活躍うれしい限りです。

教育では、学生諸君が大学入学して最初の専門科目の「水理学」を私が担当しました。私は「数学」、「構造力学」それに「水理学」は、ほとんどの卒業生が職場で欠かすことが出来ない基礎科目である、との信念を持っていました。ですから、「佐賀大学の卒業生ならこの程度はぜひ知ってほしい」との思いから結構厳しくやりました。お陰で私は生徒諸君に不人気だったのでは、と思いますが、私の救いは、卒業されてから結構多くの方々研究室を訪問してくれていたことです（自分の研究室の方だけではなく他の研究室の方々も）。卒業生は、私にとって貴重な宝です。今現場でどのような問題が起こっているのか、技術的にどのようなことが求められているのか、を教えて頂けるのですから。その知識は自分の糧にただけではなく、学生諸君にも伝えることが出来ました。

現役は退きましたが、今までの知識と経験を少しでもお役に立てられれば、との思いで事務所を立ち上げております。どうぞこれからも、多くの卒業生の皆様が事務所を訪問して下さり、コーヒーをすすりながら「今後の食料事情について」(??) 懇談させて頂ければ幸いです。

最後になりましたが、佐賀大学農学部の益々のご発展と同窓生の皆様のご健康とご活躍を心からお祈りいたします。

（写真は、インドネシア Sam Ratulangi 大学を瀬口教授と訪問したとき学長室で学長らと）



## 同窓生の職場 ⑨

井徳屋

## 地域活性化の拠点として期待される「井徳屋」

シャッター通りを活性化させようと、今年の6月1日、佐賀市の松原神社参道に「井徳屋」がオープンしました。そして、采配を振るうのが若林興三店主（文理・40年卒）です。

店の経営理念は「3つのやさしさ」。

## 1. 人にやさしい

福祉施設で取れた野菜やアジア・アフリカの子どもたちがつくった作品（フェアトレード）の販売を支援する。

## 2. 体にやさしい

有機、無添加にこだわる。

## 3. 自然環境にやさしい

佐賀県産を中心とし、フードマイレージを短縮する。

店頭には、若林店主厳選のこだわり商品ばかりです。

ところで、松原神社参道といえば、映画館、飲み屋などなど、同窓生の皆さんになじみの深い土地ですが、シャッター通り化が進行。そんななかで、なんとか食い止めようと地元の有志により「佐賀ん町屋ば甦らす会」が立ち上げられました。

その事務局長を務めるのが長安六（文理学部・44年卒）佐賀大学経済学部教授。

若林さんは都会で定年を迎え、郷里ではなく佐賀に戻ってきました。若林さんは、長教授からの「佐賀ん町屋ば甦らす会」の紹介を受けて入会し、活動を始めました。同会と会員は「和食処」「ギャラリー」をオープンし、また「生け花教室」への場所提供など活性化をすすめ、今回の「井徳屋」オープンへと発展し、若林さんの店主就任となりました。同店の営業時間は午前12時から午後5時まで。水、木は定休日です。近くにお越しの節は、是非、お立ち寄りください。

徳永 進（経済・49卒）



## 鹿児島県支部総会・懇親会

平成20年2月2日、鹿児島市内のホテル「レクストン鹿児島」において、鹿児島県支部の総会及び懇親会が開催された。

本部から久間佐賀大学同窓会会長をはじめ、楠葉同窓会、農学部同窓会、理工学部同窓会、文化教育学部同窓会の各代表の方々のご参加をいただき、県内各地から駆けつけた支部会員9名（うち女性3名）の出席のもと、初めての参加者もあり、再会を喜び語り、楽しい集いとなりました。

恒例により、久間会長から本部を代表して、佐賀大学や大学同窓会の近況報告をうかがい、出席者一



同法人化後の母校の取り組み、母校を取り巻く教育環境の発展の姿に想いを馳せるとともに、ひとまず安堵いたしました。

懇親会の席では、出席者それぞれが学生時代の思い出や、人生の喜怒哀楽を含めた自己紹介と近況の報告を行い、酒盃を交わしながら歓談し、少人数を忘れるかのような賑やかな、有意義な懇談会となり、さらに恒例により二次会へと足が進みました。

支部長 上田 耕平（文理・39卒）

# 恩・師・情・報……この一年

平成19年7月～20年6月までの動向を掲載します(敬称略)

## 定年退職(平成20年)

森田 譲 文化教育学部教授  
 井上 敏幸 文化教育学部教授  
 正岡 三一 文化教育学部教授  
 佐田 茂 文化教育学部教授  
 西田 民雄 文化教育学部教授  
 日高 敬兒 文化教育学部教授  
 伊東 翼 医学部医学科胸部・心臓血管外科学講座教授  
 柿原 正幸 医学部准教授  
 針貝 邦生 医学部准教授  
 十時 忠秀 医学部附属病院教授  
 中原 徹 理工学部教授  
 金子 賢二 理工学部教授  
 藤田 寛治 理工学部教授  
 鬼塚 克忠 理工学部教授  
 堀 勇治 理工学部助教

加藤 富民雄 農学部教授  
 小林 真 農学部准教授  
 小川 博司 シンクロトン光応用研究センター教授

## 訃報 謹んでご冥福をお祈ります。

元教育学部名誉教授 芹田 壽彦氏  
 平成19年6月25日  
 元理工学部名誉教授 永松 政俊氏  
 平成19年7月1日  
 元教育学部名誉教授 後藤 忠雄氏  
 平成20年1月21日  
 元理工学部名誉教授 平岡 毅氏  
 平成20年3月27日  
 元教育学部名誉教授 西村 賤夫氏  
 平成20年4月17日



## 第16回佐賀県青春寮歌祭のご案内

- ・日時 平成20年11月23日(日)  
13:00～17:00
- ・場所 佐賀市交流センター「エスプラッツホール」3階

会員の参加をお待ちしています。  
 参加希望の方は、佐賀大学同窓会事務局まで  
 ご連絡下さい。



## 大学及び同窓会の動き

- H20.1 .1 佐大同窓会会報「楠の葉」No.8 発行  
 2 単位提供講座キャリアデザイン / 講師 向中野裕子氏(農学部)  
 10 東京オフィス移転記念式典 / 同窓会会長出席  
 16 単位提供講座キャリアデザイン / 総括  
 23 佐大同窓会代表役員会  
 25 第25回「クリエイティブ21」 / 佐賀大学理事 西河貞捷氏
- H20.2 .2 鹿児島支部総会・懇親会 / ホテル クレト 鹿児島  
 5 佐賀大学各学部後援会との打合せ会 / 佐賀大学「菱の実会館」

- 3.5 佐大同窓会代表役員会  
 24 佐賀大学平成19年度学位記授与式  
 4.8 佐賀大学平成20年度入学式  
 9 佐大同窓会代表役員会  
 16 佐大同窓会「春期定例役員会」  
 24 第26回「クリエイティブ21」 / 佐賀大学理事 田代洋丞氏  
 25 「佐賀大学と佐大同窓会との意見交換会」 / ニューオータニ佐賀  
 5.16 佐大同窓会会報「楠の葉」No.9 編集会議  
 24 佐賀大学開学祭 ～25日まで  
 6.11 佐大同窓会代表役員会  
 27 第27回「クリエイティブ21」 / 佐賀大学理事 向井常博氏